

第2回
「RM会員アンケート調査」

2015年12月

あなたの会社の **e-審査部**
リスクモンスター株式会社

<http://www.riskmonster.co.jp>

■ 調査の概要

1. 調査名称

第2回「RM 会員アンケート」調査

2. 調査方法

インターネット調査

3. 調査エリア

全国

4. 期間

2015年10月26日(月)～11月24日(火)

5. 調査対象者

リスクモンスター会員 2,315名

6. 有効回収数

740サンプル

1. 調査結果

[1] 「RM 会員アンケート」／業種別景況感 DI

リスクモンスターの会員企業に対して、景況感に関するアンケート調査を行った結果、「景況感 はよくなった」と回答した企業の割合と「景況感 は悪くなった」と回答した企業の割合の差(DI)は、プラス 6.2 となり、前回調査時(プラス 33.4)よりも 27.2 下回る結果となった。

業種別に見ると、「電気・ガス・熱供給・水道業」(プラス 50.0)が第1位、続いて「その他のサービス業」(プラス 30.4)が第2位、「金融業、保険業」(プラス 25.0)が第3位となった。一方で、「宿泊業、飲食サービス業」(マイナス 66.7)、「生活関連サービス業、娯楽業」(マイナス 45.5)、「運輸業、郵便業」(マイナス 20.0)の3業種において「景況感 は悪くなった」と回答した企業の割合が高い結果となった。中でも「宿泊業、飲食サービス業」が、前回トップ(プラス 100)から大幅に低下した点からは、今後の動向に注視が必要な業界といえよう。

前回の調査では、DI がマイナスとなる業種はなかったが、今回は上記3業種においてマイナスとなった。また、その他の業種においても、「電気・ガス・熱供給・水道業」を除くすべての業種で、DI値が低下しており、前回よりも景気が失速している様子が伺える。(図表A)

[2] 「RM 会員アンケート」／地域別景況感 DI

景況感DIを地域別に見ると、第1位「四国」(プラス 60.0)、第2位「東北」(プラス 9.1)、第3位「関東」、「近畿」(プラス 7.5)となり、以下第5位「中国」(プラス 6.7)、第6位「北海道」、「九州・沖縄」(プラス 0.0)、第8位「中部」(マイナス 1.1)となった。「四国」においては、「景況感 はよくなった」と回答した企業の割合が最も高いうえに、「景況感 は悪くなった」と回答した企業がゼロであることから、突出して高い DI 値となったが、「中部」においては全国で唯一のマイナス地域となるなど、業種別景況感 ID と同様に、DI 値は全国的に低下した結果となった。(図表 B)

[3] 「RM 会員アンケート」／問題債権の発生

RM 会員における直近3年間の貸倒れ・回収遅延の発生状況を合わせて調査したところ、「貸倒れおよび回収遅延は発生していない」と回答した企業(回答率 59.5%)が「貸倒れまたは回収遅延が発生した」と回答した企業(同 40.5%)を上回る結果となった。前年との比較では、「貸倒れまたは回収遅延が発生した」企業が 8.9 ポイント減少している。

また、「貸倒れまたは回収遅延が発生した」企業(同 40.5%)のうち、「全額回収できた」、「現在徐々に回収している」など、債権の回収が進んでいる企業(同 14.3%)は半分以下に留まっており、依然として回収遅延や貸倒れに対する回収の難しさを反映した結果となっている。(図表C)

[4] 「RM 会員アンケート」／貸倒れ金額

[3]において、「貸倒れが発生した」と回答した企業に対して、貸倒れの発生金額を調査したところ、その平均金額は 15,122 千円となり、最大金額は 600,000 千円に上った。また、最も多額の貸倒れ金額が発生した業種は「卸売業、小売業」であり、最も平均金額が多額な業種は「建設業」であった。(図表D)

金額帯毎にみると、「500 千円以上 5,000 千円未満」(回答率 33.3%)が最も高く、次いで「1 千円

以上 500 千円未満」(同 23.3%)、「10,000 千円以上 50,000 千円未満」(同 22.2%)の順となった。

業種別では、「建設業」と「その他サービス業」において「10,000 千円以上」の貸倒れが集中的に発生しており、その他の業種においては「5,000 千円未満」の貸倒れが大半を占めるなど、業種ごとの特長が表れる結果となった。(図表E)

[5] 「RM 会員アンケート」／与信管理コスト

RM 会員における直近1年間の与信管理コスト(※)について調査したところ、その平均金額は 4,308 千円となり、最大金額は 700,000 千円に上った。また、業種別に見ると、「金融業、保険業」が、最も多額の与信管理コストを使用しており、平均金額でも最も高い業種となった。(図表F)

金額帯毎にみると、「1千円以上 500 千円未満」(回答率 32.0%)が最も高く、次いで「2,000 千円以上 5,000 千円未満」(同 17.5%)、「500 千円以上 1,000 千円未満」(同 16.9%)の順となった。業種別に見ると、「卸売業、小売業」、「金融業、保険業」において、「2,000 千円以上」のコストの使用が多少見受けられるが、その他の業種においては、「1,000 千円未満」が高い割合を有しており、全体的には低い水準になる中で、一部の企業によって平均金額が引き上げられていることがうかがえる結果となった。(図表G)

※与信管理コスト…与信管理業務において企業の信用評価を行うために、収集する情報や利用するサービスに費やすコスト。

[6] 「RM 会員アンケート」／与信管理コストの使い道と問題債権の発生

RM 会員における直近1年間の与信管理コストの使い道を調査したところ、最も回答率が高かったのは、「企業信用格付」(回答率 84.9%)であり、次いで「信用調書(国内企業)」(同 51.4%)、「信用状態モニタリングサービス」(同 33.0%)の順となった。(図表H)

また、問題債権の発生状況と照らし合わせてみたところ、与信コストの使い道として最も利用度の高い「企業信用格付」においては、「貸倒れおよび回収遅延は発生していない」(同 60.5%)、「貸倒れが発生した」(同 23.1%)の両項目において「その他の保証サービス」に次ぐ優良な結果となっていることから、「企業の信用度を小まめにチェックできる情報ツール」が実績に裏付けられて、信頼を得ていることがうかがえる。(図表I)

[7] 「RM 会員アンケート」／与信管理予算の増減と問題債権の発生

RM 会員における、昨年度と今年度の与信管理に対する予算の増減を調査したところ、「変わらない」(回答率 68.8%)が最も多く、次いで「予算が増加した」(同 22.2%)、「予算が減少した」(同 9.0%)という結果になった。

また、予算の変動に対して、近年の貸倒れ・回収遅延の発生状況を合わせて調査したところ、「予算が増加した」と回答した企業は、「貸倒れまたは回収遅延が発生した」企業(同 27.8%)に対して、「貸倒れおよび回収遅延は発生していない」企業(同 18.3%)はやや低い水準となった。さらに「貸倒れが発生した」企業(同 30.4%)の方が「回収遅延が発生した」企業(同 23.9%)よりも高い水準にあることから、問題債権の発生の程度によって、企業の与信管理予算に対する影響が異

なってくることもうかがえる。(図表J)

[8] 「RM 会員アンケート」／与信管理予算の増減理由

RM 会員における昨年度と今年度の与信管理に対する予算の増減理由を調査したところ、「予算が増加した理由」としては、「取引先が増加したため」という回答が最も多く、その他には「ファクタリングなどを活用した保全の強化を図るため」、「与信管理を新たに取り組むこととなったため」「貸倒れが発生したため」という回答が見られた。(図表K)

一方で、「予算が減少した理由」としては、「取引信用保険の見直し」という回答が最も多く、その他に「コスト削減のため」、「格付を使うことで効率を高めコストを低減した」という回答がみられた。(図表L)

2. 総評

[1]にて述べているとおり、今回の調査において、RM会員企業における景況感 DI はプラス 6.2 となった。日銀が 10 月 1 日に発表した全国企業短期経済観測調査(短観)において、業況判断指数(DI)が大企業製造業でプラス 12、同非製造業でプラス 25 であったことを考慮すれば、低い水準であり、前回調査時(プラス 33.4)よりも景気の高揚感が鈍化している様子がうかがえる。

しかし、その一方で、直近1年間の問題債権の発生においては、発生割合が前回調査時よりも低下していたり、取引先の増加に伴って与信管理予算を増加させている企業が多く存在していたりという一見矛盾した結果も表れている。

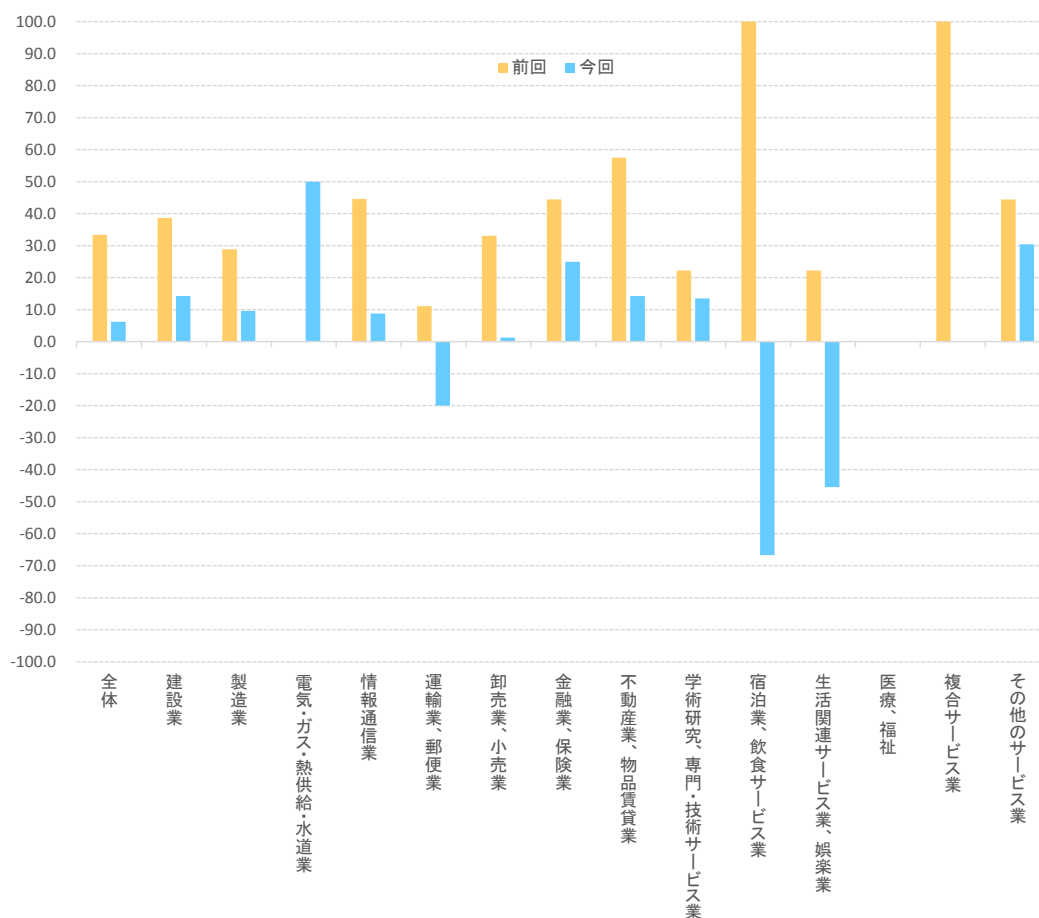
その背景として、RM会員企業には、企業経営において与信管理を重要な戦略の一つであると位置づけている企業が多いことが考えられる。いわゆるアベノミクスに起因する景気の高揚感によって、企業は取引拡大を図るために新たな取引の開拓に努めたが、優良な取引先ばかりを新たに獲得することは困難であり、与信管理ルールに則って債権リスクを分析すると、決して手放しで喜べないような状況であるように与信管理担当者の目には映っているのかもしれない。

与信管理の最終目的は、「貸倒れが発生した、しなかった」という一喜一憂ではなく、安定的に収益を確保し、企業の収益力を強化していくことにある。リスクモンスターとしては、リスクモンスター会員や、与信管理に高い意識を有する企業が、上辺だけの取引量の増加、売上の確保に惑わされることなく、自社が安定的に収益を得られるような債権リスク分布となっているかという点を、十分に意識することで好況の波に乗って頂けるように、サポートしていきたい。

図表A 第2回「RM会員アンケート調査」／業種別景況感 DI

(n=740)

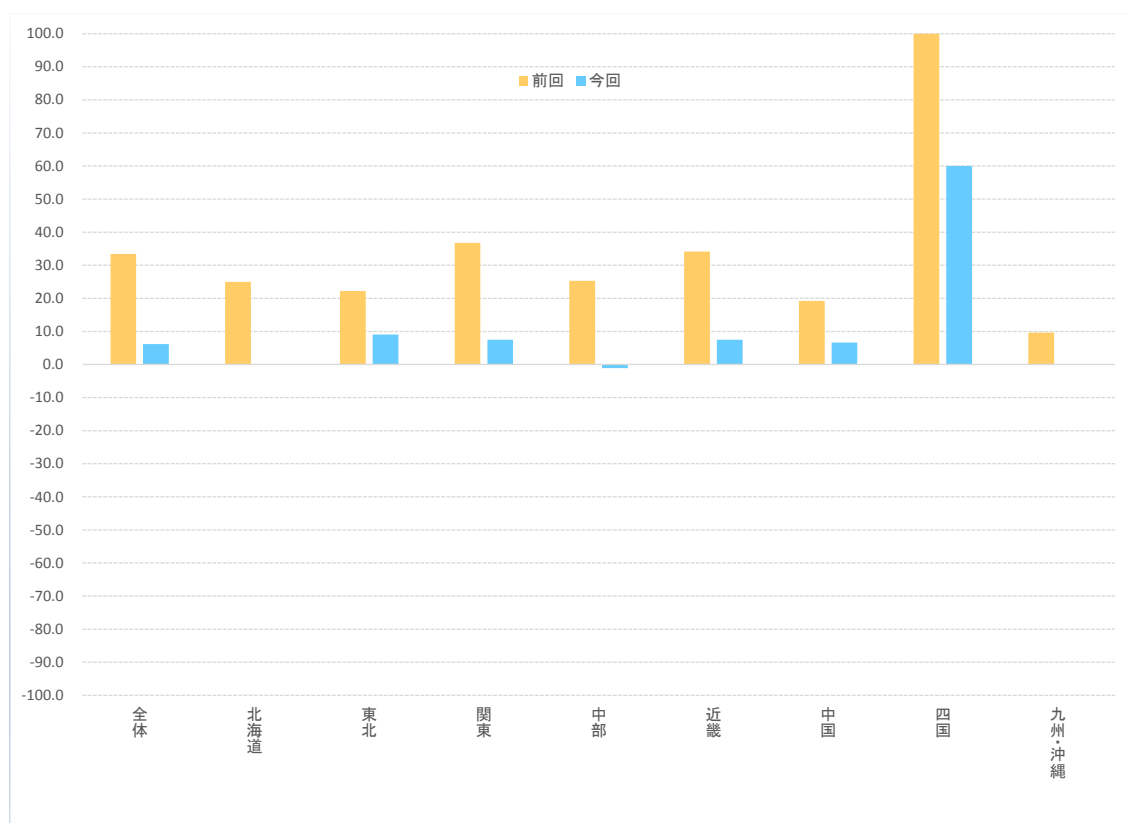
	景況感は良くなった		景況感は悪くなった		景況感DI	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回
全体	27.3%	44.4%	21.1%	11.0%	6.2	33.4
建設業	32.1%	48.4%	17.9%	9.7%	14.3	38.7
製造業	30.5%	42.2%	20.9%	13.3%	9.6	28.9
電気・ガス・熱供給・水道業	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0	0.0
情報通信業	21.1%	55.4%	12.3%	10.8%	8.8	44.6
運輸業、郵便業	22.9%	30.6%	42.9%	19.4%	-20.0	11.1
卸売業、小売業	24.5%	42.4%	23.1%	9.3%	1.3	33.1
金融業、保険業	33.3%	50.0%	8.3%	5.6%	25.0	44.4
不動産業、物品賃貸業	28.6%	57.5%	14.3%	0.0%	14.3	57.5
学術研究、専門・技術サービス業	29.7%	40.0%	16.2%	17.8%	13.5	22.2
宿泊業、飲食サービス業	0.0%	100.0%	66.7%	0.0%	-66.7	100.0
生活関連サービス業、娯楽業	0.0%	22.2%	45.5%	0.0%	-45.5	22.2
医療、福祉	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0	0.0
複合サービス業	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0	100.0
その他のサービス業	39.1%	55.6%	8.7%	11.1%	30.4	44.4



図表B 第2回「RM会員アンケート調査」 / 地域別景況感DI

(n=740)

	景況感は良くなった		景況感は悪くなった		景況感DI	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回
全体	27.3%	44.4%	21.1%	11.0%	6.2	33.4
北海道	21.1%	33.3%	21.1%	8.3%	0.0	25.0
東北	18.2%	44.4%	9.1%	22.2%	9.1	22.2
関東	27.7%	46.5%	20.2%	9.7%	7.5	36.8
中部	24.7%	39.2%	25.8%	13.9%	-1.1	25.3
近畿	29.9%	44.4%	22.4%	10.3%	7.5	34.1
中国	23.3%	34.6%	16.7%	15.4%	6.7	19.2
四国	60.0%	100.0%	0.0%	0.0%	60.0	100.0
九州・沖縄	23.5%	29.0%	23.5%	19.4%	0.0	9.7



図表C 第2回「RM会員アンケート調査」／ 問題債権の発生状況

(n=563／単一回答)

	今回	前回	増減
貸倒れまたは回収遅延が発生した	40.5%	49.1%	-8.6Pt.
貸倒れが発生した	24.2%	32.5%	-8.3Pt.
経営への影響が大きい貸倒れ	0.2%	1.3%	-1.1Pt.
経営への影響が軽微な貸倒れ	24.0%	31.2%	-7.2Pt.
回収遅延が発生した	16.3%	16.6%	-0.3Pt.
全額回収できた	6.0%	4.4%	1.6Pt.
現在徐々に回収している	8.3%	10.3%	-2.0Pt.
ほとんど回収できていない	2.0%	1.9%	0.1Pt.
貸倒れおよび回収遅延は発生していない	59.5%	50.9%	8.6Pt.

図表D 第2回「RM会員アンケート調査」／ 業種別貸倒れ金額(最大金額、平均金額)

(n=90／単一回答)

	最大金額	平均金額
全体	600,000千円	15,165千円
建設業	70,000千円	31,333千円
製造業	10,000千円	2,645千円
電気・ガス・熱供給・水道業	-	-
情報通信業	20千円	20千円
運輸業、郵便業	100,000千円	25,750千円
卸売業、小売業	600,000千円	21,294千円
金融業、保険業	-	-
不動産業、物品賃貸業	5,000千円	2,100千円
学術研究、専門・技術サービス業	8,000千円	2,930千円
宿泊業、飲食サービス業	-	-
生活関連サービス業、娯楽業	160千円	57千円
医療、福祉	-	-
複合サービス業	-	-
その他のサービス業	30,000千円	30,000千円

図表E 第2回「RM会員アンケート調査」／業種別貸倒れ金額

(n=90)

	1千円～ 500千円	500千円～ 5,000千円	5,000千円～ 10,000千円	10,000千円～ 50,000千円	50,000千円 以上
全体	23.3%	33.3%	16.7%	22.2%	4.4%
建設業	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%
製造業	39.1%	34.8%	17.4%	8.7%	0.0%
電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-
情報通信業	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
運輸業、郵便業	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%
卸売業、小売業	12.0%	36.0%	18.0%	30.0%	4.0%
金融業、保険業	-	-	-	-	-
不動産業、物品賃貸業	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
学術研究、専門・技術サービス業	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
宿泊業、飲食サービス業	-	-	-	-	-
生活関連サービス業、娯楽業	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
医療、福祉	-	-	-	-	-
複合サービス業	-	-	-	-	-
その他のサービス業	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

※「1千円～500千円」は、1千円以上500千円未満を表す。他も同様。

図表F 第2回「RM会員アンケート調査」／業種別与信管理コスト(最大金額、平均金額)(n=555／単一回答)

	最大金額	平均金額
全体	700,000千円	4,308千円
建設業	30,000千円	2,542千円
製造業	90,000千円	2,851千円
電気・ガス・熱供給・水道業	261千円	187千円
情報通信業	10,000千円	1,300千円
運輸業、郵便業	20,000千円	1,901千円
卸売業、小売業	60,000千円	4,308千円
金融業、保険業	700,000千円	120,107千円
不動産業、物品賃貸業	50,000千円	3,796千円
学術研究、専門・技術サービス業	6,000千円	872千円
宿泊業、飲食サービス業	1,200千円	650千円
生活関連サービス業、娯楽業	10,000千円	1,930千円
医療、福祉	-	-
複合サービス業	7,000千円	7,000千円
その他のサービス業	3,128千円	760千円

図表G 第2回「RM会員アンケート調査」／業種別与信管理コスト

(n=90)

	1千円～ 500千円	500千円～ 1,000千円	1,000千円～ 2,000千円	2,000千円～ 5,000千円	5,000千円～ 10,000千円	10,000千円 以上
全体	32.0%	16.9%	16.4%	17.5%	9.1%	8.2%
建設業	30.8%	20.5%	12.8%	20.5%	10.3%	5.1%
製造業	34.1%	15.9%	19.8%	15.9%	7.7%	6.6%
電気・ガス・熱供給・水道業	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
情報通信業	37.5%	27.5%	12.5%	17.5%	2.5%	2.5%
運輸業、郵便業	52.0%	8.0%	16.0%	12.0%	8.0%	4.0%
卸売業、小売業	22.8%	15.0%	13.9%	23.3%	12.2%	12.8%
金融業、保険業	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%
不動産業、物品賃貸業	25.9%	18.5%	22.2%	14.8%	11.1%	7.4%
学術研究、専門・技術サービス業	54.5%	13.6%	18.2%	4.5%	4.5%	4.5%
宿泊業、飲食サービス業	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
生活関連サービス業、娯楽業	55.6%	11.1%	0.0%	22.2%	0.0%	11.1%
医療、福祉	-	-	-	-	-	-
複合サービス業	26.7%	46.7%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%
その他のサービス業	32.0%	16.9%	16.4%	17.5%	9.1%	8.2%

※「1千円～500千円」は、1千円以上500千円未満を表す。他も同様

図表H 第2回「RM会員アンケート調査」／与信管理コストの使い道

(n=555/複数回答)

与信情報	構成比
e-与信ナビ(企業信用格付)	84.9%
e-管理ファイル(モニタリングサービス)	33.0%
よくばりPDF(国内企業信用調書)	28.5%
財務情報サービス	15.0%
RM財務格付	12.8%
ポートフォリオサービス(債権リスク分析)	12.3%
信用調書(国内企業)	51.4%
信用調書(海外企業)	17.5%
その他調査会社のサービス	31.0%
Secured Monster(債権保証サービス)	4.0%
取引信用保険	13.5%
ファクタリング	14.2%
その他の保証サービス	5.4%

図表I 第2回「RM会員アンケート調査」 / 与信管理コストの使い道と問題債権の発生 (n=555/複数回答)

	貸倒れまたは回収遅延が発生した	貸倒れが発生した		回収遅延が発生した	全額回収できた	回収している	回収できていない	貸倒れおよび回収遅延は発生していない	
		大きい影響が	軽微な影響が						
e-与信ナビ (企業信用格付)	39.5%	23.1%	0.2%	22.9%	16.4%	6.2%	8.3%	1.9%	60.5%
e-管理ファイル (モニタリングサービス)	45.3%	31.6%	0.5%	31.1%	13.7%	4.4%	8.2%	1.1%	54.6%
よくばりPDF (国内企業信用調査)	43.2%	24.1%	0.0%	24.1%	19.1%	7.0%	8.9%	3.2%	57.0%
財務情報サービス	49.3%	36.1%	1.2%	34.9%	13.2%	7.2%	4.8%	1.2%	50.6%
RM財務格付	45.0%	33.8%	0.0%	33.8%	11.2%	7.0%	4.2%	0.0%	54.9%
ポートフォリオサービス (債権リスク分析)	57.4%	38.2%	0.0%	38.2%	19.2%	5.9%	11.8%	1.5%	42.6%
信用調査(国内企業)	44.9%	28.8%	0.4%	28.4%	16.1%	6.3%	8.4%	1.4%	55.1%
信用調査(海外企業)	44.4%	26.8%	0.0%	26.8%	17.6%	6.2%	9.3%	2.1%	55.7%
その他調査会社のサービス	42.5%	25.0%	0.0%	25.0%	17.5%	7.6%	8.7%	1.2%	57.6%
Secured Monster (債権保証サービス)	81.7%	54.5%	0.0%	54.5%	27.2%	13.6%	9.1%	4.5%	18.2%
取引信用保険	48.0%	28.0%	0.0%	28.0%	20.0%	8.0%	10.7%	1.3%	52.0%
ファクタリング	58.2%	43.0%	0.0%	43.0%	15.2%	7.6%	6.3%	1.3%	41.8%
その他の保証サービス	29.9%	20.0%	0.0%	20.0%	9.9%	3.3%	3.3%	3.3%	70.0%

図表J 第2回「RM会員アンケート調査」 / 与信管理予算の増減と問題債権の発生 (n=555/単一回答)

	予算が増加した	変わらない	予算が減少した
全体	22.2%	68.8%	9.0%
貸倒れまたは回収遅延が発生した	27.8%	62.5%	9.7%
貸倒れが発生した	30.4%	60.7%	8.9%
経営への影響が大きい貸倒れ	100.0%	0.0%	0.0%
経営への影響が軽微な貸倒れ	29.4%	61.2%	9.0%
回収遅延が発生した	23.9%	65.2%	10.9%
全額回収できた	29.4%	52.9%	17.6%
現在徐々に回収している	21.3%	70.2%	8.5%
ほとんど回収できていない	18.2%	81.8%	0.0%
貸倒れおよび回収遅延は発生していない	18.3%	73.2%	8.5%

図表K 第2回「RM会員アンケート調査」／予算の増加理由

	選んだ理由
予算が増加した	不良債権が発生したため
予算が増加した	ポートフォリオを初めて利用した
予算が増加した	貴社サービスの利用を開始したから。
予算が増加した	倒産の防止と毎月与信限度枠の見直し会議を実施。
予算が増加した	与信調査強化のため
予算が増加した	取引先増加
予算が増加した	リスクモンスターのサービス利用を開始したため。
予算が増加した	景気の回復に伴い、与信額の見直し(増額)先が増えたため。
予算が増加した	リスクモンスター社と新規契約締結
予算が増加した	取引先数の増加による
予算が増加した	ファクタリング分が増加した。
予算が増加した	信用調査を利用する機会が増加したため。
予算が増加した	合併による事業規模拡大
予算が増加した	取引先の増加
予算が増加した	債権保証サービスの利用増加
予算が増加した	御社システムを利用することにより増加。
予算が増加した	与信ナビを本格的に活用することとした
予算が増加した	取引信用保険の対象を広げた為
予算が増加した	売掛先の増加。
予算が増加した	取引先が増えたから
予算が増加した	1社当たりの取得費用の上昇、検索数の増加
予算が増加した	発注量の上昇と共に取引先が増えた為
予算が増加した	事業量の増加
予算が増加した	大手リース会社のベンダーサービスが終了したため
予算が増加した	海外取引先が増えた。
予算が増加した	取引しているお客様が増加した。
予算が増加した	複数社利用する事になったため
予算が増加した	取引先が増加した。
予算が増加した	取引先財務・業績データの一括購入を開始した。
予算が増加した	取引先の増加と、与信のレベルアップ
予算が増加した	社内ルールの浸透と、社内で与信管理についての意識が高まったため。
予算が増加した	ファクタリング新規利用分
予算が増加した	きめ細かく見直しを行なう様にしたから
予算が増加した	与信ナビや信用調査の件数が若干増加したこと、RMポートフォリオサービスを利用したため。
予算が増加した	2014年の費用に加え、ポートフォリオサービスを利用予定のため。
予算が増加した	取引先数の増加。反社会的勢力との取引が無いかどうかのチェック体制を強化してい
予算が増加した	新規海外取引先が増加したから
予算が増加した	新規取引先の拡大に伴う与信調査費用の増加
予算が増加した	新規取引先の増
予算が増加した	昨年度に比べ、スポット案件が増加したため。
予算が増加した	協力工事会社の信用調査を始めたこと
予算が増加した	精緻な与信判断を行うため
予算が増加した	調査会社数の増加。
予算が増加した	社内に信用格付けの重要性が浸透した
予算が増加した	ポートフォリオサービス対象会社の増加の為
予算が増加した	顧客データ再検証のため、与信残なしの顧客も検証した。
予算が増加した	取引件数の増加
予算が増加した	信用不安客先の情報を入手し少しでもリスクヘッジするため、調査報告書等の購入を積極的に行っている。
予算が増加した	この4月よりRM格付けを指標として与信判定するようになった。4月～9月は試行期間、10月以降は与信管理規程を変更したうえで、本格稼働となる。
予算が増加した	ファクタリング費用の増加
予算が増加した	外部機関の情報活用は新規導入の為、その分の費用が純増。
予算が増加した	与信対象企業を増やした
予算が増加した	与信ナビの利用回数が増えた
予算が増加した	営業担当者の意識が向上し、与信に対して理解が深まったためなど。
予算が増加した	上場企業以外との取引増のため、日々の調査料など増加や情報収集のためのツール増設したり等。

	選んだ理由
予算が増加した	社内規定と信限度額を超過する企業のファクタリング現金化などを行った。リスモン・帝国データの調査件数増加
予算が増加した	債務先の管理
予算が増加した	子会社と信管理も請け負っているため。
予算が増加した	新規見込み客の問合せが増えたから。
予算が増加した	取引信用保険の利用。ファクタリングの増加。
予算が増加した	調査会社T社からリスクモンスター社に変更したから。
予算が増加した	売上拡大に伴うリスクヘッジ
予算が増加した	貴社のサービス価格改定があった為、増加。
予算が増加した	RMのサービスを導入したため
予算が増加した	海外取引が増加。
予算が増加した	与信管理対象の取引先が増えたため
予算が増加した	取引先増加によりe-与信ナビの利用が増加したため。
予算が増加した	社内ルールの変更により、新規顧客は全て信用調査を行う事としたため。
予算が増加した	信用照会件数が増加したため
予算が増加した	取引者数増加
予算が増加した	拡販活動により調査する必要があるため。
予算が増加した	取引先が増えた。
予算が増加した	債権保障サービス
予算が増加した	海外会社の信用調査
予算が増加した	新規の企業情報取得件数が増えた為
予算が増加した	得意先の件数が増加した為
予算が増加した	今年度加入したので。
予算が増加した	価格改定
予算が増加した	保証付与先が増えた
予算が増加した	毎年度、倒産企業が発生することから、対策として貴社のサービス導入分の予算取りをしたことから。
予算が増加した	複数の調査を併用するケースが増えたため
予算が増加した	与信対象先の増加
予算が増加した	ファクタリングを掛ける企業が増加した。
予算が増加した	海外客先が増加したため
予算が増加した	新規取引先増加と旧顧客再取引開始のため。
予算が増加した	海外取引及びその与信情報取得の為の費用増の為。
予算が増加した	与信調査対象範囲の拡大
予算が増加した	保険増額
予算が増加した	契約金額のアップ
予算が増加した	社数の増加によるもの
予算が増加した	受注ごとに毎回調査する必要がある為
予算が増加した	景気が上向きなで、取引が増えたため
予算が増加した	取引先と信管理方針の変更
予算が増加した	複数社の信用情報を入手するようになった
予算が増加した	価格変更によるもの
予算が増加した	今期よりRM開始
予算が増加した	与信管理勉強会開催の為
予算が増加した	取引信用保険の付保
予算が増加した	調査回数の増加
予算が増加した	新規取引先の増加保証サービスの増加
予算が増加した	与信管理体制を見直しする必要があり、模索しているため
予算が増加した	大口商談先の信用調査費用。
予算が増加した	調査回数の増加
予算が増加した	今後の与信管理の重要性を認識し、体制を構築するため
予算が増加した	保証料が増加したため。
予算が増加した	依頼先からの与信調査依頼の件数が多くなった
予算が増加した	取引先の増加
予算が増加した	営業からの新規取引時での調査依頼の増加、支払遅延先の増加により独自調査での
予算が増加した	信用保証サービスの利用と新規与信先の増加。
予算が増加した	新しい管理方法の追加
予算が増加した	ファクタリングの活用

図表L 第2回「RM会員アンケート調査」／予算の減少理由

	選んだ理由
予算が減少した	付保の見直し、e-与信ナビの重複利用の削減
予算が減少した	費用とリスクの判断による。
予算が減少した	必要額見直し。
予算が減少した	社内与信設定回数が減ったため
予算が減少した	取引信用保険とファクタリングの費用の軽減。
予算が減少した	取引信用保険の金額(割引)が減少
予算が減少した	貴社の会員となったので。
予算が減少した	与信見直しを半年に1回から年1回にしたため。
予算が減少した	取引先減少のため。
予算が減少した	最大の要因は取引信用保険の解約によるもの。
予算が減少した	閲覧する件数を制限したため
予算が減少した	取引信用保険料の減額ならびに取り扱い商品の価格下落
予算が減少した	全体的に取引先の信用度が上がったため
予算が減少した	各社との契約見直しによるもの。
予算が減少した	データ整備ができてきた。
予算が減少した	不要サービス解約のため
予算が減少した	債権保証サービスの利用社数減少
予算が減少した	取引信用保険料率が低くなった
予算が減少した	債権保証保険の利用が減少したため
予算が減少した	保険保証額を減額した。
予算が減少した	RM格付が良い企業に対しては、他社の信用調査を不要にする等、社内格付け評価を一部変更した為。
予算が減少した	取引信用保険の見直し
予算が減少した	リスク対象範囲の見直し
予算が減少した	業界的に人手不足に陥り、新規開拓の必要性が無くなっている(継続顧客の依頼も断る場面も出てくる状況)
予算が減少した	取引先信用保険の料率が下がった。
予算が減少した	2014年度に導入して、一通りRM格付を取得したため。今後、優良販売先は5年に1度、不良販売先はおおよそ毎年、格付を取得する。
予算が減少した	保証料の低減
予算が減少した	減額交渉により、単価引き下げのため
予算が減少した	費用対効果
予算が減少した	保険料が安くなったため
予算が減少した	予算削減のため
予算が減少した	当社親会社で管理している取引先については、親会社のランク情報を活用し、e-与信ナビを出力しなくなった為。
予算が減少した	与信調査会社を1本に絞ったため
予算が減少した	焦げ付きが発生しなくなったため。
予算が減少した	新規取引先採用数の減少
予算が減少した	建材部門を分離(別会社に移行)したため信用調査する軒数が減った、与信ナビでほぼ
予算が減少した	全体的コスト削減を行っているため
予算が減少した	海外企業調査の減少
予算が減少した	リスクモンスターの導入効果により、焦げ付きが発生しない為。
予算が減少した	より厳選して信用調査を行うようになった。
予算が減少した	特に与信管理が必要な会社が多もともと少ないが、その企業も売掛債権保険見直し時期に好調であったため、保証金額の見直しを行ったため減少した。
予算が減少した	取引基準を引き上げた
予算が減少した	台所事情によるもの
予算が減少した	ポートフォリオを実施していない
予算が減少した	債権保証サービスの利用が減少。